

かぶせ茶生産における直掛け被覆資材の事前除去法			
[要約] 直掛け被覆栽培において、摘採前日の夕刻に被覆資材を除去し翌日早朝に摘採すると、資材除去後の日射の影響が小さく品質低下はみられない。一方、摘採数時間前の資材除去でも、除去後に日射の影響を受ける場合には品質が低下する。			
農業技術振興センター茶業指導所・茶振興担当		[実施期間] 平成17年度	
[部会] 農産	[分野] 高品質化技術	[予算区分] 県単	[成果分類] 指導

[背景・ねらい]

直掛け被覆によるかぶせ茶生産では、品質低下防止のため被覆資材を摘採直前に除去するのが一般的であるが、摘採期の労働集中の一因にもなっている。このため、摘採の数時間前や前日に被覆資材を予め除去しておくことで労力の分散が図れるが、事前除去による品質への影響は明らかにされていない。

そこで、一番茶のかぶせ茶生産において、被覆資材除去からの経過時間や日射量が被覆の効果維持に及ぼす影響を明らかにし、品質に影響の小さい事前除去法について検討する。

[成果の内容・特徴]

一番茶期の直掛け被覆茶園を日中(15:00)に摘採する場合、摘採9時間前(6:00)、6時間前(9:00)および3時間前(12:00)に被覆資材を除去すると、資材除去後に日射の影響を受け(図1)、葉色や生葉含水率および全窒素、遊離アミノ酸含有率など遮光によって向上する茶芽形質・成分の低下がみられる(図2)。

早朝(6:00)に摘採する場合で、摘採24時間前(前日6:00)および18時間前(前日12:00)に被覆資材の除去を行うと、同様に資材除去後に日射の影響を受けるため(図3)、葉色や生葉含水率および遊離アミノ酸含有率の低下がみられる(図4)。

一方、早朝(6:00)に摘採する場合で、12時間前(前日18:00)に被覆資材を除去すると、被覆除去後のほとんどが夜間のため日射の影響を受けないことから(図3)、茶芽形質・成分は摘採直前に除去した場合と大差なく、品質の低下は認められない(図4)。

[成果の活用面・留意点]

一番茶の「やぶきた」で、遮光率85%の資材による被覆期間が2週間程度の場合の成果である。

被覆資材を除去すると降雨後の摘採葉の乾きが早まるため、「ぬれ葉」対策としても有効である。

[具体的なデータ]

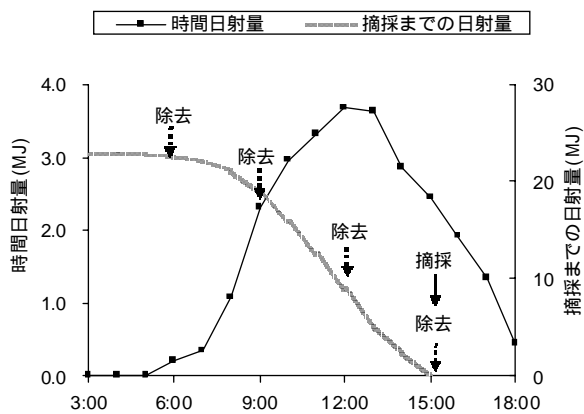


図1 被覆資材除去のタイミングと時間日射量の推移 (15:00摘採)

注) 黒色のラッセル織り資材(遮光率85%)による一番茶前14日間の直掛け被覆。摘採日:5月16日、品種:「やぶきた」。

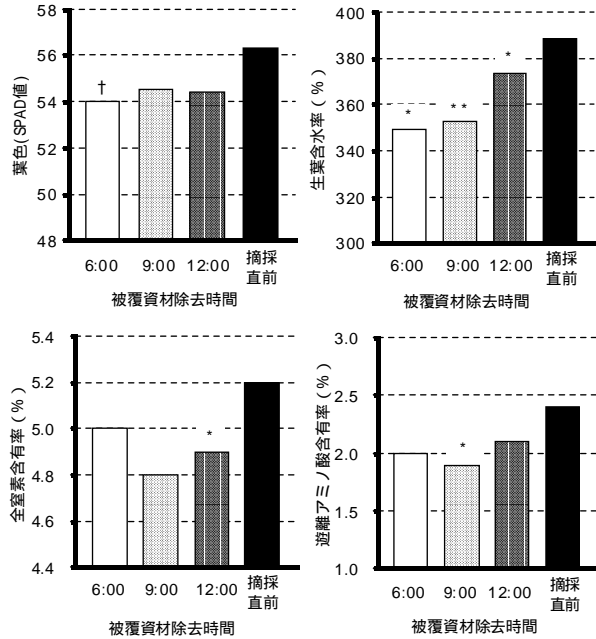


図2 被覆資材除去時間の違いが新芽形質と成分含有率に及ぼす影響 (15:00摘採)

注) グラフ上の+, *, **は、直前除去との間にそれぞれ10%、5%、1%水準で有意差がみられることを示す。

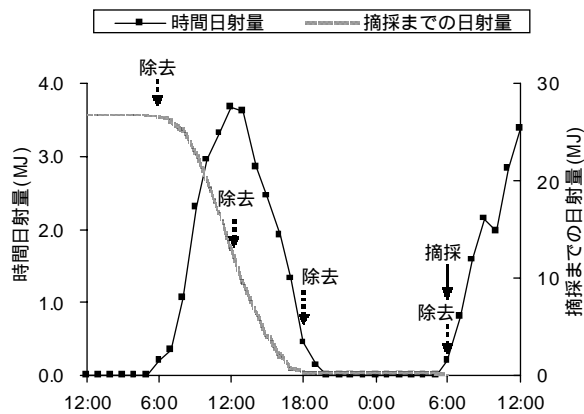


図3 被覆資材除去のタイミングと時間日射量の推移 (6:00摘採)

注) 黒色のラッセル織り資材(遮光率85%)による一番茶前14~15日間の直掛け被覆。摘採日:5月17日、品種:「やぶきた」。

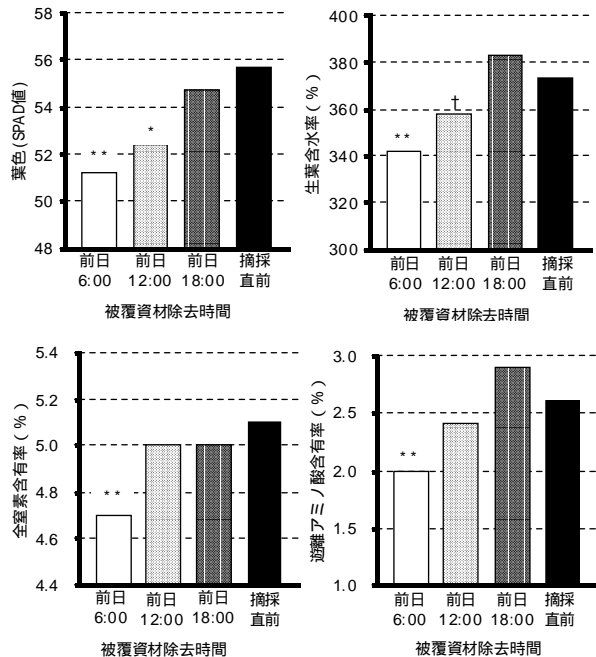


図4 被覆資材除去時間の違いが新芽形質と成分含有率に及ぼす影響 (6:00摘採)

注) グラフ上の+, *, **は、図2と同じ。

[その他]

- ・研究課題名
大課題名: 消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発
中課題名: 安全・安心・高品質な農畜産物の生産
小課題名: 「近江の茶」の高品質安定生産技術の確立
- ・研究担当者: 忠谷浩司
- ・その他特記事項
平成17年度茶業技術研究発表会(静岡県島田市)で発表。